

## ⑦ウシガエル

ウシガエル (*Rana (Aquarana) catesbeiana*) アカガエル科 原産地：北アメリカ

導入経緯：1918年アメリカより輸入。1922年以降、全国で食用に養殖が奨励された。その後、食材としての人気が急速に廃れたことから、膨大な数の個体が放逐され、定着したと考えられる。

生態：極めて捕食性が強く、口に入る大きさであればほとんどの動物が餌となる。他のカエルや小型のヘビ、小鳥、ハツカネズミ、カメの幼体等が餌として記録されている。

雌の蔵卵数<sup>\*</sup>は 6000 ～ 40000 個、一部の雌は年に 2 度産卵する。

※蔵卵数：繁殖期間中に雌が一腹に持つ卵の数

### 【調査結果概要】

文献調査によると、県内の 24 市町村において確認記録がある。南会津での記録が少ないが、他の地域における分布状況を考慮すると、県内全域に広く分布していると考えられる。

本種は、1922 年に全国各地の水産試験場等に分譲され、食用として飼育が奨励された経緯がある。戦後には養蛙事業は中止されており、膨大な数の放逐が行われたと考えられる。

こうしたことから、他の特定外来生物と比較して、定着してから相当の期間が経過していると考えられる。

捕食性が極めて強いことから、生態系への影響も大きいと考えられるが、本県における具体的な事例は報告されていない。



ウシガエル

(福島県野生動植物保護アドバイザー 稲葉修氏 撮影)

# 文献調査によりウシガエルが確認された市町村

